

- 6 番 大 野 それでは、通告にのっとり一般質問をさせていただきます。
- 受付番号第5号、質問議員6番、大野徹也でございます。
- 件名、「スマートインターチェンジを最大限に生かした政策を問う」。
- 令和4年7月29日に行った町長の所信表明において、4年間の町政運営で達成したい政策の一つとして、スマートインターチェンジを最大限に生かした政策を掲げている。その中で、令和2年3月に策定された（仮称）山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想には、五つの土地利用展開イメージが示されており、スマートインターチェンジの使用開始を見据えた優先順位をつけて検討を進めているとあるが、令和5年度に開通を控えた現時点でも進捗状況が示されていないことから、以下の質問をする。
- 1、建設工事完了に伴い、工事業者が令和7年度末で撤退する予定となっていることから、宿舎や事務所として使用されてきた旧清水中学校の有効利用策について、町の考えを伺う。
- 2、令和元年の台風19号で被災した河内川ふれあいビレッジにおいて、神奈川県と調整・復旧作業の進捗状況について伺う。
- 3、山北町地域振興プロジェクト会議において、検討されているオアシス公園の再整備状況は。また、今年11月にリニューアルオープンする道の駅山北の周辺に眺望スポットとして整備を検討しているポケットパークの進捗状況は。
- 以上。
- 議 長 答弁願います。
- 町長。
- 町 長 それでは、大野徹也議員から「スマートインターチェンジを最大限に生かした政策を問う」についての御質問をいただきました。
- 初めに、1点目の御質問の「建設工事完了に伴い、工事業者が令和7年度末で撤退する予定となっていることから、宿舎や事務所として使用されてきた旧清水中学校の有効利用策について町の考えを伺う」についてであります
が、旧清水中学校については、東急建設株式会社と現場事務所及び宿舎として平成28年7月から工事完了までの期間賃貸借契約を締結しています。中日本高速道路株式会社に確認したところ、現在の工事の進捗状況から、東急建

設株式会社の工事契約期間は令和8年3月31日までとなっています。

旧清水中学校は、令和7年3月に策定した山北町第4次土地利用計画の土地利用基本構想において、広域交流ゲート・産業振興エリアに位置し、地域の拠点として位置づけられています。また、（仮称）山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の土地利用単価イメージでは、旧清水小中学校、旧清水保育園の有効利用として、具体的には自然学習、農業体験など体験学習施設、サテライトオフィス研修施設、災害支援物資備蓄施設等を想定しております。

本町では、東急建設株式会社が令和8年3月末に撤退をすることから、本年2月に清水連合自治会をはじめとする清水地域の方々と旧清水中学校の施設見学会を開催し、現状を確認しました。この見学会では、令和28年度から約9年間使用してきたこともあり、仮設で宿舎に改造した部分等が経年により傷んでいることが確認できました。地域の方々から、このような状況においてはそのまま宿舎施設として活用することは難しいので、元の教室スペースに戻したほうが利用価値があるのではないかといった意見もあったことから、東急建設株式会社では、原状回復して返却をしていただく予定であると町の考えを伝え、話し合いを進めております。

旧清水中学校の跡地利用については、東急建設株式会社から撤退の話があった本年1月から関係各課との打合せを重ねた結果、新東名高速道路工事で使用している他の施設の跡地も含め、町としての考え方、方策を議論する新東名跡地利用推進会議を組織して検討することとし、会議の開催に向けて調整を行っているところです。そこでは、（仮称）山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の土地利用展開イメージを基本に、よりよい具体的な跡地の利活用に向けて検討を進めてまいります。

次に、2点目の御質問の「令和元年の台風19号で被災した河内川ふれあいビレッジにおいて、神奈川県との調整・復旧作業の進捗状況について伺う」についてでありますが、河内川ふれあいビレッジは、現在、新東名高速道路事業者に貸し付けておりますが、工事事業者撤退後に従来のオートキャンプ場施設として再開することを前提にして再整備を進めることとしております。

これまで大雨により2回被災し、土砂流出による災害を回避する整備が必

要であることから、施設内を流れるモロト沢の流路の見直しについて、河川管理者である県と協議を進めております。施設内を流れる被災前のモロト沢は、来場者が水辺に親しみやすいよう整備されていました。しかし、流路の線形が蛇行していることや、沢を横断する橋梁部において流出した立木等で閉塞したことが土砂流出時に被害を拡大させる要因となったと考えられるため、流路の線形や構造について見直しをするための目的や理由を整理するとともに、モロト沢を横断する橋梁の位置や構造について検討を進めております。また、施設全域が河川区域に指定されていることから、現在協議を進めているモロト沢の流路の見直しに併せて、河川区域の見直しについても県に要望しているところです。

今後も引き続き、山北町地域振興プロジェクト会議にて決定したコンセプトである「オアシス公園と連携できる施設」を具現化し、河内川ふれあいビレッジをキャンプ場施設として再開できるよう、県との協議や新東名高速道路工事事業者との調整を進めてまいりたいと考えております。

次に、3点目の御質問の「山北町地域振興プロジェクト会議において、検討されているオアシス公園の再整備状況は。また、今年11月にリニューアルオープンする道の駅山北の周辺に眺望スポットとして整備を検討しているポケットパークの進捗状況は」についてであります、オアシス公園については、山北町地域振興プロジェクト会議にて決定したコンセプトであるスマートインターチェンジ利用者が休憩に立ち寄れる施設として、（仮称）河内川橋を望む眺望スポットや多目的広場、駐車場等の整備を考えているところです。

現在の検討状況といたしましては、整備内容の具現化に向け、河川管理者である県との調整を進めております。令和7年度には2回の打合せを行い、再整備における課題の確認や今後の進め方について協議を行ったところです。今後も引き続き、関係機関との協議を重ね、令和10年度の工事着手に向けて取り組んでまいります。

なお、ポケットパークについては、道の駅山北の前方を通過する県道76号山北藤野を挟んで反対側に整備されている駐車場周辺の再整備について、山北町地域振興プロジェクト会議の施設整備部会で検討を行い、より実情に即

した施設とするため、（仮称）山北スマートインターチェンジの供用開始後に道の駅山北や駐車場の利用状況を考慮した中で具体的な整備内容を検討することとしました。

現状では樹木やベンチが設置されていますが、全域が道路区域となつてゐるため、具体的な整備内容については県と協議を行う必要があります。駐車場周辺からは、日本最大級のバランスドアーチ「河内川橋（仮称）」や、河内川が見渡せるため橋の説明板や新しいベンチの設置等について県へ要望してまいりたいと考えております。

議長 大野徹也議員。

6番 大野 それでは、再質問させていただきます。

平成26年8月に、（仮称）山北スマートインターチェンジの設置が決定してから11年の歳月が経過しております。日本の新しい大動脈となる新東名高速道路の最後の未開通区間の建設工事が佳境を迎え、トンネル工事は難工事となっている高松トンネルを残すのみとなっております。また、山北町町政70周年を記念して、名称を公募している日本最大級のバランスドアーチ橋の施行が最盛期を迎えて閉合間近となり、日に日に改めてその大きさに驚いているところでございます。

新東名はカーブや急勾配を少なくした設計で、運転士不足が深刻な物流業界で2030年代に東京・大阪間の物流機能を高めるため、自動物流道路の実証実験区間として、新秦野と新御殿版間でカートの走行実験をする計画があります。まさに、新時代を迎えるに当たって必要不可欠な高速道路となることから、一刻も早い開通が待たれるところであります。また、本町にとってもスマートインターチェンジは町の新たな玄関口として、交通環境のリダンダンシーによる医療・サービス・防災力の向上、また回答にもございますが産業・観光のゲートとして周辺土地利用構想が策定されております。

そこで、1点目の旧清水中学校、こちらは1987年、築38年を経過しておりますが、その有効利用策についての回答では、新東名対策室の仕切りで新東名跡地利用推進会議の組織を立ち上げ議論をしていくということになっておりますが、令和3年9月に「清水あり方研究会」で町長に御報告した清水地区地域経営基本方針では、地域づくりのため、地域の拠点として地域の魅力

に魅了されたファンをつくる体験交流拠点施設を整備して、都市住民などの活発な交流機会をつくり、そこで適切なサービスの提供からの収益の一部を地域で生活向上に還元することで、適切な仕組みづくりを基に旧清水中学校を地域の独居高齢者の集合住宅や、診療所が併設されたコンパクトな施設にリノベーションして、地域振興協議会が指定管理者制度を活用して運用するという計画をしておりました。今回、10月にスタートする新東名跡地利用推進会議で、その計画を再度議論されるのでしょうか。お伺いします。

議長 企画総務課長

企画総務課長 この10月に第1回目の会議をします新東名跡地利用推進会議。こちらに関しましては、先ほど石田照子議員の質問の中でも若干お話を触れさせていただいたんですけども、今新東名対策室のほうでこの跡地利用について検討しているということで、現在、町長の答弁にもございましたとおり、当初の考え方は自然学習・農業体験施設、サテライト研究というのが当初山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の利用としての位置づけになってますので、そこは大前提に今検討するというような予定であります。また、時代がいろいろ変わりつつもありますので、その時代に合わせたものもできるように、幅広く検討していきたいとは考えております。

議長 大野徹也議員。

6番大野 10月からスタートと。議論はこれからという結論かと思います。ちょっと遅きに逸しているなというふうなことだと思うんですけども、回答にもありますけど、改めて山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想での清水中学校の土地利用方針と、導入イメージについてお伺いしたいと思います。

議長 企画総務課長。

企画総務課長 町長の答弁と重なる部分はございますが、こちらの土地利用に関しましては、旧清水小中学校、また清水保育園というのは廃校・閉園となってますのでそちらを利用するということで、導入のイメージにつきましては、自然学習・農業体験などの体験学習施設、サテライトオフィス、研究施設、災害支援物資備蓄施設というふうなことで位置づけをされております。

議長 大野徹也議員。

6番大野 ここで確認したかった清水中学校の有効利用のキーワード。こちらは今御

回答にもありました、サテライトオフィスで水源地域と都市市民の交流拠点とするというふうなことが土地利用方針となっております。

また、山北町第4次土地利用計画で、学校跡地については地域特性を踏まえて各地域の振興のため必要な利用方針を検討し、利用転換後の維持管理主体や手法も見据えて地域住民との十分な協議により検討するとありますが、それを踏まえてのことだと思いますけども、令和7年2月に清水中学校の現地視察を行いまして、新東名対策室、財務課、連合自治会長、各自治会長、そして清水あり方研究会が東急建設の案内で宿舎兼事務所の使用状況を確認しました。

一部を除きという形になりますけれども、9年間の使用による経年老朽化で撤去をお願いしたということでございます。特に高圧電気設備、キュービクルですね。こちらについては、東急建設さんが持ち込んだものということでございまして、いわゆる設備の更新というものが、費用的なものがかかるのではないかなというふうなことがございます。

東急建設さんは、令和7年度までに工事を完了させて撤収することが決まってるわけですから、あと公共施設等の総合管理計画にも新東名関連の貸付業務終了後は、公共財産の維持管理として、また遊休資産を生まないためにも、令和9年を待たずして旧中学校の利活用を町として進めなければならぬと認識をしております。

そういう状況の中で、ちょっと話が脱線するかもしれませんけど町長にお聞きします。町長は、道の駅ですとか様々なところを視察に行かれたと、以前一般質問の答弁で御回答されておりますけど、道の駅保田小学校は視察されましたでしょうか。

議 長 町長。

町 長 清水中学校については1回視察させていただいて、それから道の駅については今仮設でやっておりますけれども、それが終わったときに、出来上がったときにどういうふうに、何というのですか。道の駅をその中心としてスマートインターの。おそらく道の駅という名前からして、もう皆さんがあつた情報を取り場所だというふうに思っておりますので、そういう意味でしっかりと山北町の情報をそこで獲得できるように、我々としてもそういうこ

とを最優先に考えて、道の駅に来ていただければ山北町の観光のかなりの部分が分かるというような、そんなようなことを目指したいというふうに思っております。

議長 大野徹也議員。

6番 大野 すみません。ちょっと話がなかつたようなんですけども、視察には行かれているということなんですが、千葉県の鋸南町ですか。そちらの保田小学校は、平成26年3月に廃校です。清水中学校も同時期に廃校になっております。スマートインターチェンジの連結期間が決定した年でもあります。卒業生である鋸南町の町長が、廃校決定後の直後から跡地利用を検討し始めた。小学校のたたずまいをできるだけ残した状態でリノベーションし、都市交流施設道の駅保田小学校として宿泊施設を整えたということでございます。こちらのほうは、リノベーションする際の費用を国交省、農水省のバックアップを受けているということでございます。体育館を利用した道の駅の名前、この名前は保田小学校とそのままつけたんですけど、これも町長のアイデアだそうです。

そういうふうな部分でいきますと、町長には直後から動いてほしかったなという思いはあります。ただ、ここにきて同じような形ができるかというとそれはちょっと難しいと思います。ただ構想の中に、正式名称に都市交流施設というふうなことをつけておりますので、その辺を先ほど山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の土地利用方針として導入イメージからのキーワード。道の駅は今年11月の再オープンに向けて県のほうでリノベーションをしていただいてますから、ここはサテライトオフィスを整備事業として、山北町の森林に関する6次産業に取り組むスタートアップ企業の誘致、水源地域と都市市民の交流拠点、そしてSUPなどスポーツツーリズム関連の事業拠点として有効利用するために、地域創生テレワーク交付金を活用するというのはいかがでしょうか。

議長 町長。

町長 いろいろな清水中学校の跡地利用については、私もいろんなところで見て、地域の皆さんを考えられるのを最優先にしながら、しかしいろいろな提案ができるのではないかということで当たっております。その中で、取りあえず

私が宿泊施設みたいなものはどうだろうということで先ほども答えましたけども、千葉のそういったような業者に見てもらって、残念ながら私のほうとしては無理そうだというような検討をいただいております。

そういう中で、どういったことがほかにもいろいろな提案がありますけど、そういうことを一つずつ検討しながら、実際にどういう方法が一番いいのか。私も、例えば村上市の山北町で実際に学校の跡地を宿泊施設として泊まったことがありますけど、やはりなかなかリノベーションするのに学校というのは結構大変だなというふうに考えております。ですから、そういった意味ではどれが一番可能性があるのか。私の考えとしては、地域の考えがまず一番優先されるけど、その地域の方にこういう提案はどうだ、ああいう提案はどうだというものをお示しするのも我々の務めだというふうに思ってますから、そういった中で地域の方々が納得するような、そんなような提案を今後も考えていきたいというふうに思っております。

議長 大野徹也議員。

6番 大野 先ほどホテルのお話はお聞きしまして、立地条件やらここはちょっと難しいよということで即お断りになられたということなんで、やっぱり清水中学はそういう立地なんだろうなというふうには思っております。

ですので、サテライトオフィスというふうな形の中で、交付金を使って初期コストの縮減といいますか。これ交付金の上限額、補助率は事業タイプによって異なりますけど、2分の1から3分の4の補助金があるんです。言つてはなんですが、当町は財政力指数が0.5未満だと思うんです。ここ3年間の平均でいきますと0.4幾つだというふうなことだと思うんですけども、その場合には、逆に特に有利な条件が設定されているということをちょっと確認が取れませんけども、そういうふうな条件が有利だよというふうなことだそうです。

サテライトオフィスにすると何がいいかというと、当然賃料収入が入ってくるわけです。ですから、その賃料収入でランニングコストの一部に充ててもらう。あるいはそういうオフィスに関係する方々の関係人口が期待できるのではないかというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

議長 町長。

町長 サテライトオフィスとかワークショップとか、特に学校施設については人口が日本全国どんどん減っておりますから、空いた学校がかなりありますから、そういう中で今のようなサテライトオフィスとかワークショップみたいなものは非常に多く考えられておりますので、当然それについてもやっていかなければいけないというふうには思っておりますけど、実際問題としてどういう方法が一番いいのか。つまり、サテライトオフィスにしたからといって全部が埋まると私は思ってませんので、やはり一部じゃないかなと。一番使いやすいところはある程度埋まるのではないかというふうに思ってますので、そういった中ではあまり使わないところをどういうふうに使っていくのかとか、そういったようなことが起こるのではないかというふうに思ってます。

ですから、当然大野議員が言われたようなサテライトオフィスも当然いいことだというふうに思っておりますけど、実際問題としてそれらを具体的にどういうふうに募集をかけるのかとか、そういったようなこと也有って、これからはそういった土地利用の検討会の中でしっかりと議論していきたいというふうに思っております。

議長 大野徹也議員。

6番 大野 新しい会議体で議論していただくと。できればそこにあり方研究会もお話を聞く場面とか、そういったものを当然地域住民としての説明をいただくとか、そういうふうなこともうたってるわけですから、そういった部分を一緒に協働でやっていけないかなというふうなことでございます。

サテライトオフィス先ほど言いましたように、やっぱり呼ぶ企業は山北町の森林に関する部分でスタートアップ企業というふうなことを、ほかの西栗倉村ですか。百年の森というようなことでもう前からやってらっしゃるところもあるんですけど、そういったものですとか、水源地ですからその辺の絡めた事業ですね。それと丹沢湖でS U Pやってますので、そういったスポーツツーリズム。その辺を生かせないのかなというふうなことでちょっと御提案をさせていただいたということでございます。

今ちょっとあり方研究会のほうでもう一つ提案をしている、清水地区地域経営基本方針で計画した、旧清水中学校を活用して地域の独居高齢者の集合

住宅にリノベーションして、その財源には令和7年6月に閣議決定をされました地方創生2.0の基本構想で、将来を考えたまちづくりとして過疎地などで高齢者が安心して暮らせる住まいを確保するため、低料金で入居できる高齢者シェアハウス、小規模の地域共生ホームということを全国的に整備するという方針が示されました。

地方創生交付金でリノベーションの財源を支援するということでございまして、これはちょっと研究ですとか、時期的な部分もありますけども使えないかどうかというのを、これ所管はどちらになるんですか。保険健康課長さんのはうですか。ちょっとお答えをいただければありがたいんですけど。

議長 保険健康課長

跡地利用につきましては回答書にも、あと午前中の石田議員の質問にもありましたように、今日何回か言葉が出てる新東名跡地利用促進会議。こちらの中で図られていくというものと考えてございます。今おっしゃられた高齢者シェアハウスについては、その選択肢になるのではないかと私個人は思つてゐるんですが、ただこの会議の中で決まってくるものだと思いますので、それ以上のことはちょっと今は言えないかなというふうに思つてます。

議長 6番 大野

そうですね。会議で俎上に上がらなければ、当然この話はなかったものという、当然そういうことなんでしょうけども、やっぱりそれを研究していくだけ、調査していただくということはその会議の中で十分間に合う話だと思うんです。ですから、そういうものをぜひとも活用して、中学校跡地の有意義な有効利用というものを考えていただければというふうに思つてます。

併せて、訪問介護サービスの提供をする事業所が、ゼロの事業体として令和24年末に全国で107市町村。町長御責任者だと思うんですけど、残念ながら本町と真鶴町、清川村の3町はゼロということでございます。介護業界の人材不足が深刻で、人口減少が進む地域では需要も減って採算が悪化し、施設を閉鎖すると。

当町も御多分に漏れずということだったと思うんですけども、町長ちょっと先ほどの話の中で60歳が85歳を見る老老介護の状況だということでございます。そこで、高齢者シェアハウス。ここで介護が必要な人を元気な居住者

が施設の業務を手伝うと。その人が介護が必要になったときには、また次の元気な人がお世話をするというサイクルをつくって、サテライトオフィスに介護事務所として介護ヘルパーに入居してもらい、地域ケアサービスに当たってもらう。

その流れで、先ほど石田議員の質問で難しいという御回答でしたけども、社会福祉法人にそこに入居していただくと関連づけができますので、そうすると社会福祉事務所にも入居してもらうことによって、移転先の候補地として考えてもらうと。耐震の心配や駐車場の問題。この辺も解決できると思うんですが、町長改めて御意見を伺いたいと思いますが。

- 議長 町長。
町長 清水のあり方検討会からいろいろな提案をいただいておりまし、その中でも今おっしゃったサテライトオフィスとか、あるいは集合住宅、いろいろな意味で非常に参考にさせていただいております。

基本的に今の山北町を見ますと、人口減少と少子化、そして高齢者が非常に多いというようなことでございますので、どうしても話がそちらのほうに行きがちになるというふうに思ってます。しかし、将来のことを考えるとやはりスマートインターができることによって、あそこは山北の玄関口になりますから、私は集合住宅でも何でもあれですけども、人口を増やせる可能性があるのはやはり清水地域が一つ候補に挙がるというふうに思っておりますので、そういった中でどういう企業を誘致するか。そして、またその企業はどういうふうに清水地域で活躍してもらえるかということが非常に大事だというふうに思っておりますので、できるだけ今おっしゃったサテライトオフィス、あるいはまた山北町森林が多いですから、そういったようなことも考えながら一番いい方法を考えていきたいというふうに思っておりますけども、これって決めるのではなくていろいろな提案をいただいて、それをみんなで検討していきながら一つずつ可能性を探っていきたいというふうに思ってますので、これからも様々な提案を地域で出していただければ町としても真剣に考えていきたいというふうに思っております。

- 議長 大野徹也議員。
6 番 大野 これは清水地域にとってのサテライトオフィスで来ていただいた方々とい

うことではなくて、山北町全体でそういったものを呼ぶという、そういうことがどんどん、どんどん人を呼ぶということになるのではないかなというふうに思っております。

これは町長が業務ということで指示をすれば、先ほど検討をするというようなことで町長おっしゃいますけど、それをこういう話があるからこれを検討してくれとかということを指示するのは町長ですので、ぜひとも町長から声を出していただくということで、そうすれば仕事になりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、2点目の河内川ふれあいビレッジの復旧作業の進捗状況ですけども、再整備にするに当たって町の方向性を示しているところであるということで、河内川区域内で整備が困難な状況にあるということなんですが、この辺については少し具体的に御説明をいただければお願ひしたいと思うんですが。

議長　　都市整備課長。

都市整備課長　　ふれあいビレッジの関係で、今神奈川県と協議させていただいておりますのは、施設内を流れるモロト沢ですね。こちらの関係で協議をさせていただいております。

先ほど町長からもお話ありましたが、今協議の目的といたしましては、現状のモロト沢が大きく蛇行しているというような状況でございまして、このことが災害の被害拡大の要因となっているということが考えられるため、今回見直しの協議を行っていると。流路が決まらないと、ふれあいビレッジ全体の施設のレイアウトは決まらないということも併せて協議をしているという状況でして、今の協議内容ですけれども、そもそも流路を見直しする目的、そういういった理由ですね。この整理と、あとモロト沢を横断している橋がございますが、この橋の位置ですとかそういったものについて今協議をしている状況です。

あと引き続きモロト沢の上流部なんですが、今3事業で、当時そこが崩れて土砂が流出したということもありますので、今県の治山事業で事業を行っていたいただいておりまして、聞いているのが令和5年度から6年度、こちらが沢の上流部において土砂の崩落した箇所をのり枠の施工をしていると。今年度から来年度にかけて沢の一番上流部、こちらにおいて谷止め工のいわ

ゆる堰堤ですね。堰堤をつくると。最後令和9年度で最下流において谷止めをつくると。5か年の事業で治山事業については行うということで聞いております。

議長 大野徹也議員。

6番 大野 流路の線形変更ということがなかなか県のほうで許可がもらえないということで、町長は令和4年、5年、6年と3か年にわたって再三その辺を政党ヒアリング、それから首長懇談会で要望されているということなんですが、今回また首長懇談会が29日にございましたね。その辺の状況はどうなんでしょうか。

議長 町長。

町長 県のほうでは、何回も何回もモロト沢について要望しておりますし、また何ていうんですか、駐車場についてももちろん要望しておりますけれども、なかなか今の特に西湘土木については県のほうの意向を気にしてまして、結論はなかなか出していただけない。ほぼ分かったという話は何回も言うんですけど、じゃあそれでオーケーだとかそういうような答えをもらってないのでは、まだまだそれについては協議していかなければいけないなというふうには思っておりますけども、ただ全体的に地域の皆さんにも在り方研究会の中ではかなり私はよく検討していただいているというふうに思いますけれども、あそこの道の駅、そしてまたオアシス公園、そして河内川のふれあいビレッジの場所というのはそうめったにある場所ではないので、大体どのくらいの規模というか売上げを想定しなくてはいけないかというと、私の考えでは年間最低10億ぐらいの売上げを出さなくてはいけないというふうに思ってます。

大体コンビニエンスストアがちょっとはやったお店だと、年間1億5,000万ぐらい売上げを立てます。ですから、道の駅にしてもあるいは仮に今現在はオートキャンプをやっておりますけども、その内容をかなり上に引き上げて構想しないと、おそらく耐えられないというふうに思ってますので、そういった意味で全体のところをある程度まとめていかないといけないのだろうというふうに思っております。

ですから、簡単に今までのよう何とかやっていければいいという想定ではなくて、やはり売上げをつくっていくというようなところもこの地域にと

っては非常に大事なことだというふうに思っておりますので、せめてあそこ
の地域で全てで10億は売上げが上がるような、そんなようなことを考
えていかないと、なかなか山北町にとってもせっかくスマートインターチェンジが
できても経済効果が限定的になってしまうというふうに思ってますので、そ
ういったことを考えながら進めていきたいというふうに思っております。

議長 大野徹也議員。

6 番 大 野 10億という単位は、以前イオングループの関連のイオンファンタジーさん。
町長のほうでそこを紹介していただいて、あの一帯を多々羅田のところと喜
一郎新田。あの一帯を開発するというふうなことでイメージしたやつですか
ら、オートキャンプ場だけで10億というのはとても無理な話なんんですけど、
それを無理にしても、オートキャンプ場が平成30年まで営業しております、
そのときに観光入込み客数は1万5,000人超えなんですよ。29年が1万4,000
人。1万5,000人近いと。売上げにしても1,800万から2,000万というふうなこ
とでしたので、清水区にとっては貴重な収入源というふうなことだったわけ
です。ですから、それが今もう7年ぐらい機会損失ということでお金が入っ
てないわけです。ですから、一刻も早くその辺を県のほうの許可が優先され
ますけど、何とかあそこを必須事項だということで町長のほうねじ込んでい
ただいて、早くあそこを復旧できるように。

復旧のために、東急建設さんが残土仮置場。あれが11月でテントを撤去す
るということなんです。その後を鹿島・大成さんが引き続き残土置場で置く
よと。でもそういう測量とかいろいろなことに関しては、全面協力ですから
言ってくださいと言われてますので、なるべく早くその辺の動きを見せないと
地域の皆さんもやきもきしてるということがありますので、ぜひともその
辺を前に進めていただきたいというふうに思っております。

3点目に移りますけども、オアシス公園の再整備と眺望スポットとして整
備を検討しているポケットパークの件ですけども、町長は昨年の河川の占用
許可の柔軟な対応を県にお願いしていると。今回もやっぱりその迅速な対応
というようなことをさんざんお願いをしているということなんんですけども、
オアシス公園の再整備なんんですけども、やっぱりここはごめんなさい。

その前にちょっと戻っちゃって申し訳ないんですけど、河川区域の件があ

りました。ふれあいビレッジは。ですから、その河川区域が後退すれば、今鹿島・大成さんの事務所と駐車場アスファルト舗装、これを譲渡してもいいよという話もあります。あそこの活用もそうすれば、ポケットパークの部分で対岸で見るよりも事務所のほうから見る。事務所の活用でいろいろ活用ができるのではないかというふうに考えてますので、ぜひその辺を町長のほうで旗振りをしていただきたい、そこを何とか町のもので。もちろん河川区域が外れないことには話になりませんけれども、ぜひともそういうふうな形でちょっと進めていただきたいというふうに思います。

眺望スポットで今申し上げましたように、いずれにしても河川許可というものが縛りになってしまっているということですので、それを県のほうがいつ解除してくれるかという問題がありますけども、もう何回も何回もお願いをするという方法以外にはないのかと思いますけど、ぜひとも一刻も早くその辺で決着をつけて前に進めていただきたい。資材置場だから4年だよとかというお話もされますけど、資材置場ではない部分とかどんどん進めることができますので、ぜひともその辺はやっていただければというふうに思います。

町長、最後に本町にとって新東名の開通は、スマートインターチェンジ周辺や丹沢湖周辺だけでなく、衰退みの町全体の観光産業を復活させるラストチャンスだというふうに私は思います。ビッグチャンスというふうなこともお話もありましたけど、人口減少の波は地域の活性化を妨げています。一刻も早く手を打たなければ、特に我々のような山間地域の過疎地の進展は、やっぱり関係人口の創出だけでは追いつかないということがあろうかと思います。2050年を待たずに消滅してしまうのではないかというふうな危惧を持ってます。そのことを踏まえて、新東名の開通による本町発展の今後のかじ取りを最後にお聞かせいただき、私の質問を終わります。

- 議長 町長。
- 町長 とにかく清水中学校もそうですけども、基本的には道の駅、そしてオアシス公園、そして河内川ふれあいビレッジというようなものを再整備する。再整備するときに、やっぱり目標がなくてはいけない。ですから、私的には例えばオートキャンプ場は過去の売上げの3倍ぐらい。だから1億ぐらいは最

低いってほしいなというふうに思ってます。それによって、当然つまり値段も上げなくてはいけないし、人を増やさなくてはいけないというふうには思いますけど、仮にそれによって来る人が多少減ってもある程度やむを得ないところはあるのではないかというふうには思ってます。

それから、当然新しい山北の特産物を開発していかないと難しいだろうと思ってますので、特に私が聞いた中では山北にスイーツがすごいのがないで、そういったものがあそこで販売できればそれだけでもかなりいくのではないかというふうに思ってますし、当然清水の方だけでは間に合いませんので、外部からいろいろな企業とか何かにも入っていただきなければいけないなというふうに思ってますし、河川区域をクリアするのはやはり建物を造るのではなくて、例えばキッチンカーを並べるとか、そういうようなことで移動できながら土日とかそういったときに売上げを立てられるような考えをしなければいけないのでないかなというふうにも思ってますし、そういったようないろいろなことを複合的にやりながら、やはり将来的には先ほど言ったようにあそこの地域で10億ぐらいの売上げが立つようにすれば、地域の経済はかなり回っていくというふうに思いますし、そういったことが私は必要ではないかなというふうに思ってますので、これから特にそういうような地域についてはチャンスは1回しかないわけですよ。

こんなふうにスマートインターができるのは、山北町では今までなかなかできなかつたことがスマートインターができるわけですから、そこに来るお客様の数が大体当初では1日1,300台と言われましたけど、伊勢原とか秦野の話を聞くと3倍から5倍というふうに聞いてますので、少なくとも土日には3,000台以上の方が来られるというふうに思ってますので、その人たちに山北町にお金を落としていただきて応援していただくというようなことは非常に大事だというふうに思ってますので、そういった中で皆さんにまた知恵を出していただきながら、山北らしいすばらしい産物とかそういったものをやっていきたいなと思っています。一つは、実際にもう今販売されてますけどウイスキーは非常に評判がいいので、ああいったものもぜひこれから山北の特産物として扱っていきたいというふうに思っております。